

祇園小学校 校長だより (第68号) 令和2年度第9号 令和2年8月9日

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

## 長崎原爆 県民祈りの日

長崎県は8月9日を「県民祈りの日」と定めています。原爆犠牲者のご冥福をお祈りするとともに、恒久平和への誓いを新たにする日です。今年の日曜日でしたが、8月9日を登校日とし、学校で平和について学び、原爆が投下された11時2分に黙祷を捧げました。

私は、県民祈りの日の趣旨や長崎原爆の様子、戦争や争いごとにならないように頑張っている人や平和な世界を目指して活動している人の存在などについて話したあと、子どもたちに次のように呼びかけました。「今は子どもであるあなたにもできることはあります。それは、平和について学んだり考えたりしたことを心の底から受けとめること、友達との争いごとで相手を傷つけていないかよく考えること、自分が嫌だったことを言葉でわかりやすく伝えること、そして、相手のことをわかり合って仲直りし、そのあとに嫌な思いを残さないことなどです。友達との争いごとをきちんと解決できること、それがあなたにとっての平和だと思います。また、自分の周りの人や物、自然などを大切にしたりすることも続けてください。今のあなたにもできることを繰り返すことが、平和な世界へとつながることと信じて頑張りたいと願っています。」

## 地域行事への参加を

今年度は休校の影響から、全国学力・学習状況調査は中止となりましたが、昨年度は、学力調査、学習状況調査共に全国平均を上回るよい結果でした。その中で、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に対する児童の回答は、全国平均を大きく下回っていました。校区内、校区外、転勤族等にかかわらず、住居のある地域が児童にとっての地域です。同じ地域に住む住民同士のつながりが大切だと考えますので、児童の又は親子での地域行事への参加をお願いいたします。以下、祇園歴史の旅(その42)にも掲載した、筒井隆義さんのエッセーを引用いたします。

地域の歴史は、連綿と受け継がれてきた住民の暮らしそのものです。各人の胸の中に残る思い出の地に立てば、過ぎし日が脳裏によみがえります。嬉しかったこと悲しかったこと。亡き父母や友人、知人の笑顔、涙、ぬくもりと共に、今を生きて在るみんなの心の中に宿り続けています。そして、私たちの子や孫が、またこの地で暮らしの日々を持ち、あるいは新しい住民が訪れるでしょう。生々流転、世の中は変化して止みません。しかしながら、そこに住む多くの人が、この地に住んでよかったと心の底から思えるような地域にすること。それは住民一人一人の肩にかかり、・・・(続く)

## 祇園歴史の旅(その68)「8周年の祇園小とその時代」

祇園小学校沿革史によると、平成21年8月まどか教室空調工事、11月14日市歯の健康優良校コンテスト努力校受賞、平成22年3月第2校舎2階トイレ改修工事とあります。普通教室の空調は今年(令和2年夏)から運用していますが、まどか教室に、いち早く空調が入ったときでした。

また、インターネット記事によると、当時の主な出来事は次のとおりです。平成21年4月5日米国オバマ大統領「核兵器のない世界」プラハ演説、5月15日国内初新型インフルエンザ感染者確認、8月30日衆院選民主大勝政権交代、9月16日鳩山内閣発足、平成22年2月12日バンクーバー冬期五輪開幕、3月12日同パラリンピック開幕。

次回は、「9周年の祇園小とその時代」と題して、9周年の祇園小学校の出来事や平成22年4月～23年3月までの日本内外の主な出来事をご紹介します…。